

シティアクセス株式会社 安全研修会レポート

2018年3月23日（金）実施

バス事業部

いざ！というときに慌てない救命救急講習会・避難措置研修会を実施

日頃より「安全・安心な貸切バスの運行を実現するための総合的な対策」に取り組んでいるシティアクセス。

今回は貸切バス乗務員を対象に、横浜市消防署・予防課より講師をお招きし、救命救急講習会及び貸切バスを実際に使った避難措置訓練を行いました。



命をつなぐ大切な初期対応として救命救急

バスを運行中、乗客の方が急病で倒れたり、道端で意識を失っている方に遭遇する可能性はゼロではありません。

その場で居合わせた人が応急手当を行えば、その後、現場に駆け付けた救急隊にスムーズに引き継がれ、連携プレーで命が救われる可能性がぐんと高まります。

予防課の中元様は「救急要請が出されてから救急車が現場に到着するまで、都心部では平均9分、郊外では30分かかる場合もある」といいます。



その間、何もしなければ、尊い命が失われることがあります。また、重篤な後遺症が残り、社会復帰がかなわなくなる可能性もあります。

救命救急は日頃からトレーニングをし、確実に身に付けておくことが大切。今回は、AEDの使い方と、救命措置について実体験しました。

AED（自動体外除細動器）の役割とは？

AEDとは Automated external defibrillator の略で、自動体外除細動器というものです。



AED の役割は、一時的に心臓の動きを停止させること。心臓がけいれんを起こすと、血液を体に送り込むポンプ機能が失われている状態（心室細動）になります。ここに電気ショックを与えると、バラバラに動いていた心筋（心臓の筋肉）の動きが一度ストップ。心臓はその後、脳からの指令により、正常なリズムを取り戻すことができるそうです。

医療ドラマなどでよく見かける除細動器との違いは、判断するのが「自動」か「人」かということ。AED は機械が心臓の動きを自動解析し、電気ショックを与えるのに対し、医療用のものは、ドクターが心電図を見ながら判断します。

AED は音声で操作方法をガイドしてくれ、自動で最適なショックを与えてくれるものなので、だれでも簡単に使用できるのがメリット。倒れている人をみかけたら、ためらうことなく使用してほしい、と中元さんはおっしゃっていました。

まずは救命救急の流れを把握

倒れている人を発見したら、周りの安全を確認します。道端に倒れていたら、自転車や車などが迫っていないか、周りに危険なものがないかを慌てずにチェックしてからそばに近づきます。

続いて倒れている人の肩をたたいて意識を確認します。



この際、たたくのは鎖骨の上。最初は軽くたたき、耳元で小さな声で「大丈夫ですか？」、

「どうしましたか」などと語りかけます。その後、だんだん声を大きくし、しっかりとたたくようにします。だいたい3段階ぐらいで意識確認を行います。

応えないようであれば、周りの人に「あなたは119番（救急車）に連絡してください」、「あなたはAEDを持ってきてください」と指さし、声をかけます。



そして普通に呼吸しているかどうかの確認。胸や腹部の動きがあるかどうか、必ず10秒以内に行い、それ以上長引かせないようにします。

顎だけを動かす「喘ぎ呼吸」がある場合がありますが、これは、瀕死の状態によくある異常な呼吸パターンのため注意が必要だそうです。

続いて心臓マッサージをすぐに開始します。手のひらを重ねるようにして胸の中央にある胸骨を圧迫。胸が約5cmほど沈む程度の強さで、1分間に100～120回のテンポで押し続けます。

この際姿勢に注意します。肘がぴんと伸びていること。胸骨を上からまっすぐに押すようにします。



救命救急講習を受けたことがある方は、心臓マッサージ（胸骨圧迫）と人工呼吸を組み合わせると教わったかと思います。

しかし中元さんは、人工呼吸に関しては感染を防ぐためのマスクが手元がない場合は、人工呼吸を行わなくてもよいといいます。もし、人工呼吸の訓練を受けている、マウスピースを持っているという場合なら、胸骨圧迫 30 回の後、人工呼吸 2 回を繰り返していきます。

心臓マッサージを行っている間、別の人が AED の装着準備を進めます。装着方法や準備の仕方は音声で案内があるので、それに従えば大丈夫です。

パッドを装着するコツは、心臓をしっかり挟むこと。大人であれば、片方は肩の近く、もう片方は逆側のわき腹の下（肋骨の下あたり）につけます。

小さい子どもの場合は、片方を前側、もう片方は後ろ側で挟むようにつけてもいいそうです。電極パッドの取り付け方は、イラストで説明書きがあるので、慌てずに落ち着いて手際よく貼るようにします。



電極パッド貼り付け後、AED が自動で心電図の解析を行います。解析中は倒れている人に触れてはいけません。触れている人の心臓の信号を読み取ってしまう恐れがあるからです。

その後、AED が電気ショックが必要と判断した場合、ガイダンスが流れます。周りの人に「離れてください」、「触れないでください」と声を掛けます。



誰も倒れている人に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。

2分ほどのインターバルを経て、再び心臓マッサージを再開します。心肺蘇生と AED の手

順は、何らかの応答や普段通りの呼吸などが現れるまで、救急隊に引き継ぐまでは続けるようにしてくださいとのことです。

講義をもとに乗務員が実際の手順を実践

予防課の中元さんたちの説明を受けた後は、乗務員たちで実践。2つの人形を使い、声掛けから心臓マッサージ、AEDの使用を行いました。



姿勢と圧迫の仕方のコツ、AEDの電極パッドの取り付け方など、実践する乗務員に対し、自信をもって取り組めるような的確なアドバイスをいただきました。

乗務員からは「雨が降っている場合はどうしたらいいか」、「小さい子どもの場合はどのようにしたらいいか」など積極的な質問が飛び交い、今後の取り組みに役立つアドバイスもたくさんいただくことができました。

心肺蘇生を行わなければならないような事故がないことが大前提ですが、万が一の場合、知っておけば役立つ技術と知識。大変有意義な研修になりました。



バスのエンジンルームから出火した場合を想定した避難誘導、消火活動訓練

昨年も何件か、バスのエンジンルームから出火する火災事故が発生しています。平成 28 年 4 月 22 日付国土交通省から出された「バス火災事故防止のための点検整備ポイント」を参考に、緊急点検整備を実施するよう昨年 9 月に呼びかけもありました。

今回は横浜市中消防署・予防課から中元様にお越しいただいたので、救命救急講習とともに、バス火災を想定した訓練も併せて行いました。



バスのエンジンルームから出火。バスを安全な場所へ停止させた後、後部にある非常口を開けて、乗客を降ろすところから訓練スタート。



この場合、一般道であれば不要ですが、高速道路の場合は、追突事故を防ぐために、発煙筒で後続車に緊急停車していることを伝えるようにします。



発煙筒にはマッチのように着火させるものが付いているので、そこをこするようになると火が付きます。道路に置くとき、余裕があればまっすぐ立てるのがポイントです。



乗客を無事避難誘導した後は、エンジンルームの消火に当たります。今回は水を詰めた消火器を使い、エンジンにはかけずに、消火するデモを行いました。



限られた時間の中ですが、それぞれ目的意識をもって訓練ができたと思います。いざというときに慌てず対処できるかどうかは日頃の訓練が大切だということを実感できた研修会でした。

お忙しい中、足を運んでくださった横浜市中消防署・予防課の方々に感謝申し上げます。



シティアクセス乗務員が、日本旅行様より表彰されました

今回の研修会ではインバウンド旅行を取り扱う、日本旅行の国際旅行事業本部・海外営業部マネージャーの星様にお越しいただきました。星様のセクションでは、海外からのお客様が視察や研修で日本を訪れた際、様々なバス会社から貸切バスを手配し、ご案内することがよくあるそうです。

その際、ご利用いただいたガイドさんたちにアンケートを取り、バスの運行についての満足度などを調査したところ、シティアクセスの評価が高かったとのこと。



特にドライバーに対する評価が**5段階評価のうち、最高評価の「5」**を獲得したということで、代表して秋山 健、石原 孝昭、森 研之 3名の乗務員に表彰状が送られました。



日頃より、お客様満足度向上、ホスピタリティに力を入れた社員教育に対し、客観的な評価をいただいたことは大変名誉なことです。

これから安全への取り組み同様、サービスの質の高さにも磨きをかけていく所存です。
日本旅行の星様、ありがとうございました。